



生きがい

「もう生きたってしょうがない。足腰も弱ったし、娘にも迷惑かけてるもの」

と長生きされることを嘆く患者さんは少なから



松原 清二 医師

在宅療養支援診療所「まつばらホームクリニック」院長
総合内科専門医・循環器内科医
・日本循環器学会専門医
・日本内科学会認定医
・認知症専門医
・認知症サポート医

この会話が少なくなった

えは特に女性に変化が出やすく、親しい人や家族

内閣府の統計によれば、65歳と85歳以上の

方を、65歳と85歳以上の

生きがいは少なくなる

うです。また、性別でい

えは特に女性に変化が出

やすく、親しい人や家族

と長生きされることを嘆

く患者さんは少なから

な方なら、デイサービスや社会福祉協議会が設けている体操や教室、各種セミナーなどに行くこと

を勧めます。ただ、なかなかその一歩が出ない、出向こうとしない

私が目頃診療をしている患者さんには、「この方には何ができるのか

り生きる張り合いが落ちる」と自問自答を常に

度合いが落ち込むと、よ

り生きる張り合いが落ち

かたりすると、生きが

り生きる張り合いが落ち

かたりすると、生きが

り生きる張り合いが落ち

かたりすると、生きが

【まつばらホームクリニック】
☎ 042-439-1250
matsubarahomeclinic@gmail.com
西東京市東町 4-14-18-2F
■電話対応：午前 9:00～午後 6:00
■定休日：土日（祝日は診療）
■訪問地域：西東京市、東久留米・新座・練馬の一部
まつばらホームクリニック 検索



を醸成することが大切だと思っ

はもとより、その方の

が、日頃の診療では病

な問いに対し、明解な

生きがいという直接的

も現実です。

り生きる張り合いが落ち

かたりすると、生きが

り生きる張り合いが落ち